

第172回 大阪市外郭団体評価委員会

日時：令和3年2月26日（金）

開会 午前10時00分

○【小松法人担当課長】 それでは定刻になりましたので、第172回大阪市外郭団体評価委員会を始めさせていただきます。

私は本委員会の事務局を務めさせていただいております、総務局行政部法人担当課長の小松と申します。よろしくお願いいたします。

それでは議題に入りたいと思いますので、以後の議事進行につきまして、阪口委員長にお願いいたします。

阪口委員長、よろしくお願いいたします。

○【阪口委員長】 おはようございます。今日も委員全員出席していますので、会議が有効に成立しています。

今日の議題のうち、前半の外郭団体の令和2年度経営評価については公開で、監理対象団体の役員公募に係る当該役員の職務内容及び募集要件については法人情報なので非公開で行うということにしたいと思います。

それでは、最初の議題について、事務局から説明をお願いします。

○【小松法人担当課長】 それでは、御説明させていただきます。

教育委員会事務局におきまして、所管いたします外郭団体である公益財団法人大阪国際平和センターの令和2年度経営評価につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問いたします。

内容につきましては、所管所属から御説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○【教育委員会事務局】 おはようございます。教育委員会事務局生涯学習部長の三木でございます。

それでは、お手元の資料、大阪国際平和センターの令和２年度事業経営評価につきまして、２ページ以降の様式２の各取組ごとの評価についてまず御説明した後、様式１に戻りまして、総合的評価について御説明することといたします。

それでは、まず、２ページの取組－１でございます。上段の中期計画の欄を御覧ください。中期計画におきまして、大阪市小学校長会や中学校長会において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小学校長会などに働きかけを行っていくことにより、小・中学校の来館率を高めていくよう取り組むこととされております。

中段の年度計画達成状況の欄を御覧ください。年度計画におきましては、小・中学校の校長会などでＰＲの実施や教員等の研修会等の誘致に取り組むこととされておりましたが、実績といたしまして、校長会等で１９回のＰＲ、５日間の教員初任者研修等の誘致、夏休み期間中１０日間の児童絵画・版画展を実施いたしました。

それらにより、指標１、大阪市立小学校全校に対する来館率がＲ２年実績、４月から１２月でございますが、２８．５％、指標２、大阪市立中学校全校に対する来館率が同じく１０．８％になりまして、それぞれ令和２年度の目標である小学校１８％、中学校４％を大幅に上回ることができました。

下段の外郭団体の自己評価の欄を御覧ください。団体の自己評価としましては、要約しますと、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、積極的にＰＲ等を行うことで目標を達成することができました。ただ、今年度、来館いただけなかった学校がこのまま途切れてしまうことがないよう、次年度以降も積極的にＰＲを行うということとされております。

ページ替わりまして、３ページの市の審査の欄を御覧ください。本市といたしましても、以上の団体の自己評価は妥当と考えております。新型コロナウイルス感染症の影響がどこまで続くか不明でございますが、次年度の目標を達成できるよう積極的なＰＲ等を求めていると考えております。

次に、4 ページの取組－2 でございます。最上段の中期計画の欄では、来館した大阪市立の小学校に対してアンケート調査を実施し、ピースおおさかが平和学習の場として役立ったのかという問いに対して、4 段階中最上位の役立ったとした回答の割合 85%、これを計画期間中維持するように努めるというふうにされております。

上から 2 段目の年度計画達成状況の欄を御覧ください。年度計画におきましては、常設展示や特別展示の開催、充実等や施設の快適性の向上、それから、博物館・資料館の機能の充実を図るとされておりましたが、実績といたしまして、それらの実施とともに定時映画を要望の多かった午前中にも実施しまして、大阪空襲体験画の追加、館外 W i - F i の設置などを実施いたしました。それらにより、アンケートでピースおおさかが平和学習の場として役立ったと回答した割合について、R 2 年実績としまして 88.9% となり、目標である 85% を達成することができました。

上から 3 段目の外郭団体の自己評価の欄を御覧ください。団体の自己評価としましては、要約しますと、展示の追加や定時映画の上映時間の改善等の取組が評価され目標を達することができた。次年度以降についても学校のニーズを把握し、改善、工夫を図るとされております。

最下段の市の審査の欄を御覧ください。本市といたしましても以上の団体の自己評価は妥当と考えております。次年度も継続して目標を達成できるよう、感染防止対策を徹底しながら来館促進を図り、ニーズに沿った改善を行うことを求めていると考えております。

続きまして、5 ページの取組－3 でございます。最上段の中期計画の欄では、ピースおおさかの企画事業の参加者に対しアンケート調査を実施し、今回参加していかがでしたかという問いに対して、5 段階中上位 2 つの「とてもよかった」、「よかった」と回答した割合 75% を計画期間中維持するように努めていくこととされております。

上から 2 段目の年度計画達成状況の欄を御覧ください。年度計画におきましては、

平和祈念事業を実施し、情報発信に努めるとされておりましたが、実績としましては、平和祈念事業を3回実施いたしました。それらにより、アンケートで、企画事業に参加して「とてもよかった」「よかった」と回答した割合が81.2%となりまして、目標の75%を達成することができました。

上から3段目の外郭団体の自己評価の欄を御覧ください。団体の自己評価といたしましては、要約しますと、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、予定していた平和祈念事業の4回中1回は中止することとなりましたが、3回は人数制限を行いながらではありますが実施することができ、参加者から高評価を得、目標達成することができました。平和祈念事業は寄附金を財源に実施しており、次年度は来館者を増やし、寄附金の確保を図り、寄附金を有効活用しつつ、魅力ある事業実施に努めるとされております。

最下段の市の審査の欄を御覧ください。本市としましても、以上の団体の自己評価は妥当と考えております。次年度は開館30周年でもあり、来館者の増加を図るとともに、満足度も向上させる魅力ある様々な事業を展開されることを求めていると考えております。

最後に、以上御説明しました各取組の評価を踏まえた総合的な評価について御説明します。

戻りまして、1ページの様式1を御覧ください。上段の中期目標の欄ですが、まず、（1）当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的または施策の具体的な内容につきましては、特定の歴史観や考え方に偏らず中立的に事業を実施していくとともに、大阪中心・子ども目線で平和を自分自身の課題として考えられるような展示を行い、もって大阪市内に居住する小・中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこととしております。

（2）の中期目標の期間は、令和2年4月1日から令和7年3月31日の5年間としております。

(3) 中期目標の期間終了時におきまして、(1)の行政目的または施策によって実現しようとしている状態は、中期目標期間、大阪市内に居住する小・中学生をはじめとする多くの市民に大阪中心・子ども目線で平和を自分自身の課題として考えられるような展示を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状態としております。

次に、下段の当該事業年度の評価の欄を御覧ください。団体の自己評価のうち、当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価につきましては、要約しますと、令和2年度は新型コロナウイルスの感染症の感染拡大の状況に大きく左右されたが、戦後75年にふさわしい企画事業等の実施や施設の快適性や資料館機能の強化の取組を行うとともに、教員の研修の誘致などで講堂、会議室の有効活用を図るなど、様々な取組の実施により年度目標を達成することができたと評価されております。

また、最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組につきましては、来館者数は新型コロナウイルス感染症の影響が現時点では想定し難いが、学校関係のPRやアンケートなどで把握した平和学習達成度向上のための取組を積極的に進めていくことから、最終目標達成の見込みは、ア、順調とされております。

最後に、本市の総合的な評価といたしましては、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を大きく受けた中、休館や事業の休止、縮小など、団体の活動に大きな制約がございましたが、団体の努力により全ての年度目標について達成し、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会の提供に大きく貢献したと評価できる考えております。

説明は以上でございます。よろしく御審議のほうお願いいたします。

○【阪口委員長】 ありがとうございました。

それでは、委員各位から御質問、御意見をお願いできますでしょうか。

○【野村委員】 すみません、野村のほうからお伺いします。

来館率の関係なんですけれども、例年の実績に比べて今年はぐっと目標値も下げられて、これはコロナの関係でなかなか例年の達成は難しいということだと思うんですけれども、恐らくピースおおさかのほうで考えられる範囲で感染対策をされた上でお迎えしているということだと思うんですけど。その中で、足を運ぶ小学校、中学校と、今年はやめようとなってる学校があるということだと思うんですが、今年は来てくれてない学校というのは、感染対策は十分なんだけど、学校の考え方というかポリシーでこういう人が集まる場所には行かないという判断をされたということか、あるいは、この辺が不安だからちょっとまだ行けないなと考えてるかとか、その辺は何か分析というか、されてるかどうか。次年度は53%ということなんですけど、目標が、達成できるかどうかとかいうことにも関係してくるかなと思いますので、もし来られてない学校についての原因分析というか、もしありましたら御発言いただければと思います。

○【教育委員会事務局】 それは学校側のほうの授業の進捗の関係が一番大きいと思います。学校は緊急事態宣言を受けまして、5月の中旬まで全校休校いたしておりましたし、その後も8月末までは校外学習、こういった施設見学等の校外学習は基本的に行わないという教育委員会からの通達等もございましたので、やはり8月末まではゼロ校ということです。その後もやっぱり学校側も授業の遅れを取り戻すということが非常に、それが一番、学校にとっては大きな課題でございましたので、どうしても校外学習等に割ける時間が少なくなってしまったということが実情であるかと思います。

私どものほうの感染防止対策につきましては、十分校長会等を通じて説明もいたしましたし、そういうことで、一定そういう授業の進捗等で余裕があるといえますか、そういったところについては来ていただけたのかなと考えております。

次年度につきましては、4月になりませんと、クラス替えとかが固まって担任とかが決まりませんと、次の新年度の学習計画が固まりませんので、その辺りから予約を

していただけるように十分、また校長会はじめいろんな場面、ツールを使って働きかけをしていきたいというふうに考えております。

○【野村委員】 そうすると、恐らく、来年度は緊急事態宣言のような一斉休校とかは恐らくない、もしないとすれば、今年よりも、より上回る来館が見込まれるというような感じでよろしいでしょうか。

○【教育委員会事務局】 そうですね、それは今年のようなことはないかと思っております。今も緊急事態、今日解除、2月末で解除される予定ですが、緊急事態が仮に再発令されましても、学校については休校しないというふうな文科省の方針でございますので、そういう意味では年間の授業計画が立てやすいかなと思っております。特に今年御来館いただけなかった小・中学校を中心に働きかけまして、ぜひ次年度については来館していただけるようにアピールしていきたいというふうに考えております。

○【野村委員】 ありがとうございます。

あと、すみません、もう一つなんですけれども、満足度のアンケートのところがあったかと思うんですけれども、8割程度の皆さんが一応、上2つの「とてもよかった」という選択をされているということなんです、残りの、全部の回答があったうち8割が4とか5とかだったという理解ですよね。残りは1、2、3のどれかだったという理解なんです、それでよろしいのでしょうか。

○【教育委員会事務局】 はい、そのとおりです。

○【野村委員】 その1、2、3だったっていうのは何か、この辺がもうちょっととかいうような自由記載欄みたいなものもあるんですか、その辺は、理由というのは分かるんですかね。

○【教育委員会事務局】 向と申します。

自由記載はもちろんです。また御説明ができると思うんですけど、今はちょっと用意はしておりませんけど。

○【野村委員】 分かりました。ありがとうございます。

○【阪口委員長】 ほかの委員、いかがですか。

どうぞ。

○【水上委員】 水上です。よろしくお願いいたします。

様式2の取組－2の記載について確認させていただきたいんですけれども、数値目標はクリアされてるということで、確認したいのは、数値目標とやられてる実績との関係についてでして、黄色の、台紙が黄色になってる年度計画達成状況の実績の部分の記載だと「常設展示や」というような表記があって、「また」以降で館内の空襲という体験画の追加や館内Wi-Fiの設置とかSNSの開設などというような記載があって、この「また」以降のところですね、Wi-Fiの設置とかSNSの開設というのは、上の最初のアンケートの評価と何か関係があるのか、それか、ここの「また」以降の部分は直接関係ないけれども、こういった改善をしましたということなのか、その辺りちょっと御説明をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○【教育委員会事務局】 Wi-Fiにつきましては、これ従前から計画を進めておりまして、特に外国人の方とかが、コロナになる以前は結構大阪城を訪れてくださる外国人の方多くいらっしゃいまして、ピースおおさかにも足運んでいただける場合が多うございまして、そのときにやはり公衆Wi-Fiがつかないというふうなことで、一定その辺の改善要望等もございましたし、やはりWi-Fiがつながるほうが、例えば翻訳にしたって何にしても非常にできますし、そういうホームページでいろんな動画とかそういったもん発信等もしてっておりますので、そういう意味では、それは館内環境の整備ということでやっております。

それから、SNSとかにつきましても、やはり、SNS等を通じてこの展示よかったよとかいうふうなのが広がっていきますので、そういう意味では、数字でちょっとどこまでの関連性が出るかは、ちょっとまだそこまでの分析はできておりませんが、一定やっぱり満足度といいますか、には貢献はしてるのかなというふうに思っております。

ます。

○【水上委員】 承知しました。じゃあ小学校のアンケートに直接反映されない部分があったとしても、広く反映していくという意味で。

○【教育委員会事務局】 そうです、はい。

○【水上委員】 承知しました。ありがとうございます。

○【阪口委員長】 あとの先生方はいかがですか。

○【清水委員】 清水です。

ちょっと言葉の意味合いがよく分からなかったんです。定時映画というのは、定時。

○【教育委員会事務局】 時間決めまして、10時からとか14時からとか、そういう、毎週金曜日でしたかね、そういうので、いろんな映画を、主に平和とか戦争体験等に関連するような映画を、この中にホールがあるんですけども、そこにホール、当然感染対策をして人数も減らした上でやってまして、その午前中にも上映してほしい要望があったんですね。それで、それを上映してると。特にそれはどちらかといいますと年配の方とか、そういった比較的、近く住んでおられる方も含めまして、大人の方が中心ですけども、そういうことでございます。

○【清水委員】 特に小・中学校に限らないということですか。

○【教育委員会事務局】 はい。

○【清水委員】 なるほど。定時というのは時間が限定してるという意味ですかね。分かりました。

○【市口委員】 市口でございます。

先ほど御説明の中に来年度、開館30周年を迎えるという御説明があったと思うんですけども、何か特別なそういう企画というか、行事というか、そういうことを今のところお考えなんですか。

○【教育委員会事務局】 またちょっと具体化の方が、といいますのはコロナ感染状況等がどうなってるかというのがございますので、あれなんですけども、一定、や

っぱり、普通に考えましたら、毎年8月15日に平和祈念事業としまして平和コンサート等を、追悼式等をやっておるんですけども、そういった中で何らかの30年のあゆみみたいなのを振り返るとか、幾つかの、30年の記念誌とかの発行ができるとか、そこまではちょっとあれですけども、そういう何らかの祈念事業というのは団体のほうも考えておられると思いますし、こちらのほうも一定、あまりそういうお金もかけられませんですけど、一定の範囲内でそれはできたら、節目としていいのではないかとこのうふうに思っております。

○【市口委員】 分かりました。

○【阪口委員長】 じゃあ、僕からはないので。

そしたら、すみません、質疑応答としては以上でいいと思いますんで、ありがとうございました。

○【教育委員会事務局】 ありがとうございます。

では、失礼いたします。

○【阪口委員長】 答申としては、もう妥当と思料するでよろしいですか。

○【清水委員】 そうですね。

○【阪口委員長】 はい。じゃあ、そういう形で、妥当と思料するということにさせていただきます。

○【小山法人担当課長代理】 また文言は委員長に一任ということで。

○【阪口委員長】 ああ、文言は、まあ。

○【小松法人担当課長】 また最終的に。

○【阪口委員長】 趣旨としてはそういう趣旨でね。